

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：
株式会社古守電化における
高効率ボイラーへの更新

排出削減事業者名：(株)古守電化
排出削減事業共同実施者名：新日本石油(株)
その他関連事業者名：

目次

1	排出削減事業者の情報	2
2	排出削減活動の概要	2
2.1	排出削減事業の名称	2
2.2	排出削減事業の目的	2
2.3	温室効果ガス排出量の削減方法	2
2.4	国内クレジット認証要件の確認	2
2.5	承認排出削減事業計画からの変更項目	2
3	排出削減活動期間	3
3.1	プロジェクト開始日	3
3.2	モニタリング対象期間	3
4	温室効果ガス排出削減量	3
4.1	採用した排出削減方法論の情報	3
4.2	活動量	3
4.2.1	活動量・原単位	3
4.2.2	活動量の採用根拠	3
4.3	事業の範囲（バウンダリー）	3
5	モニタリング対象指標	4
6	モニタリング体制	5
6.1	モニタリング対象指標の QA/QC	5
7	排出削減量の計算	6
7.1	事業実施後排出量	6
7.2	ベースライン排出量	6
7.3	リーケージ排出量	6
7.4	温室効果ガス排出削減量	6
8	省エネルギー量	6

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社 古守電化
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	本社工場
住所	山梨県甲府市落合町 817
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業 共同実施者名	新日本石油 株式会社

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

株式会社古守電化におけるボイラーの高効率化

2.2 排出削減事業の目的

ボイラーの高効率化によりエネルギー使用量を低減し、この更新によりエネルギー使用効率の改善をすることで、二酸化炭素排出量の削減を図る。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

既存のボイラーをより効率の高いボイラーへ更新する。この更新により、エネルギー使用効率の改善をすることで、二酸化炭素排出量の削減を図る。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

（個別項目の欄において具体的に記載すること。）

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画 4 項に沿って記載（計画から変更あった場合は、実際の開始日に変更して記載）。

2008 年 8 月 16 日

3.2 モニタリング対象期間

（本報告における実績報告期間）

2008 年 8 月 16 日～2009 年 10 月 31 日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

4.2.1 活動量・原単位

本削減事業においては活動量・原単位は用いない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業の範囲は、既存の重油ボイラーと更新後の高効率重油ボイラーの燃料に由来する CO2 排出量である。これらボイラーが生産した蒸気を社外へ供給することはないため、事業の範囲は、更新するボイラー及び更新するボイラーから蒸気の供給を受ける設備である。

5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由	記録責任者
$F_{fuel,Pj}$	事業実施後（燃料転換後）の燃料使用量	kL/年	178.6	燃料の納品書を集計		
$HV_{fuel,Pj}$	事業実施前（燃料転換前）燃料の単位発熱量	GJ/kL	39.1	デフォルト値		
ε_{BL}	事業実施前（燃料転換前）ボイラー効率	%	80.4 83.4	実測値からの計算値 (低位発熱量 42.7MJ/kg から 高位発熱量 45.2MJ/kg への変換)		
ε_{Pj}	事業実施後（燃料転換後）ボイラー効率	%	89.7	カタログ値からの計算値（低位 発熱量 42.7MJ/kg から高位発 熱量 45.2MJ/kg への変換）		
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前（燃料転換前）燃料の単位発熱量あたりの炭素排出係数	t-C/GJ	0.0189	デフォルト値より算出 (1kcal=0.004186MJ)		
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後（燃料転換後）燃料の単位発熱量あたりの炭素排出係数	t-C/GJ	0.0189	デフォルト値より算出 (1kcal=0.004186MJ)		

6 モニタリング体制

排出削減事業計画 7.2 参照

6.1 モニタリング対象指標の QA/QC

データの種類	QA/QC 手順（該当手順の無い場合、その理由を記載すること）	QA/QC 責任者
活動量		
事業実施後のボイラーにおける燃料使用量	・毎月燃料供給会社からの請求書に記載された数量を集計し、本社工場事務所に記録を保管する。	
単位発熱量		
燃料の単位発熱量	・方法論のデフォルト値に変更がないか確認する。	
排出係数		
A 重油の単位発熱量あたりの炭素排出係数	・方法論のデフォルト値に変更がないか確認する。	

7 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

7.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
178.6[kL]	39.1[GJ/kL]	0.0189[t-C/GJ]	484[t-CO ₂]
EMPj			484[t-CO ₂]

7.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
195.7[kL]	39.1[GJ/kL]	0.0189[t-C/GJ]	530[t-CO ₂]
EM _{BL}			530[t-CO ₂]

7.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0[t-CO ₂]

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	CO2 排出量
ベースライン排出量 (7.2)	<i>EM_{BL}</i>	530[t-CO ₂]
事業実施後排出量 (7.1)	<i>EMPj</i>	484[t-CO ₂]
リークージ排出量 (7.3)	<i>LE</i>	0[t-CO ₂]
温室効果ガス排出削減量	<i>ER</i>	46[t-CO ₂]

8 省エネルギー量

ベースライン (①)	原油換算	
	実績 (②)	ベースラインー実績 (①ー②)
197.4	180.2	17.2